

公益社団法人出水郡医師会
令和 8 年度 第 5 回定例理事会議事録

開催日時：令和 8 年 8 月 12 日（水）19:30～20:47

開催場所：医師会事務室

理事現在数及び定足数：現在数 12 名、定足数 12 名

出席者：理事 10 名

〔本人出席〕 來仙隆洋、黒木康文、中村直英、朝倉孝弘、新富義侯、吉井治美、
内匠拓朗、二宮崇仁、林 豊秀、古郷修一郎

〔監事出席〕 今村 章

〔事務部〕 尾上博美、飛松英明、原田あかり

議 事：

〈報告事項〉

1. 会報編集委員会(7/1)
2. 令和 8 年度第 1 回鹿児島県地域医療構想調整会議(7/3)
3. 阿久根市要保護児童対策地域協議会代表者会議(7/8)
4. 第 57 回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会(7/11・7/12)
5. 出水地区結核対策委員会(7/15)
6. 「災害の医療救護活動に関する協定」の協定書調印式(7/16)
7. 令和 8 年度第 1 回出水市地域包括支援センター運営協議会(7/24)
8. 鹿児島県医師会国保組合第 150 回臨時組合会(7/29)
9. 第 1 回郡市医師会長連絡協議会(7/30)
10. 令和 8 年度医師会立看護師等養成所会議
(都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会)(7/31)
11. 准看護学校
12. 附属阿久根看護学校
13. 広域医療センター
14. 第二病院
15. 各支部報告
16. 県理事報告
17. その他

〈承認事項〉

1. 会員の入会について
2. 共催・後援依頼について
3. 阿久根市介護保険運営協議会兼地域密着型サービス運営委員会並びに地域包括支援センター運営協議会の委員の推薦について
4. 鹿児島県医師会 会内各種委員会委員の推薦について
5. その他

〈協議事項〉

1. 安定ヨウ素剤事前配布説明会への医師派遣について
2. 阿久根市地域ケア会議委員の推薦について
3. 鹿児島県医師会報へのご寄稿について
4. 福祉医療機構による物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期運転資金へ申し込みについて
5. その他

添付資料

資料 1 広域医療センター運営状況報告

資料 2 第二病院理事会報告

資料 3 県理事報告

資料 4 福祉医療機構による物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期
運転資金へ申し込みについて

《報告事項》

1. 会報編集委員会

中 村 副 会 長

令和 8 年 7 月 1 日（水）医師会会議室で開催された。

夏号の校正及び秋号の編集方針について協議。秋号の巻頭言は、椎木伸一出水市長
にお願いすることとなった。

2. 令和 8 年度第 1 回鹿児島県地域医療構想調整会議

来 仙 会 長

令和 8 年 7 月 3 日（金）鹿児島県庁で開催された。

報告事項

1) 現行の地域医療構想の取組実績等について

2) 「新たな地域医療構想に関するとりまとめ」について

協議事項

1) 新たな地域医療構想の検討体制について

2) 新たな地域医療構想の策定スケジュールについて

今までは病床の機能分化と連携ということで、病床を持っている事業所が高度急性
期、急性期、回復期、慢性期のどこにあたるのかというデータを作り上げた流れがあ
った。それに伴い、各地域の問題点が目安になってきて、今後はどう改善していくか
ということで、2026 年度に新たな地域医療構想というテーマが掲げられた。

特に新しいこととして医療機関機能の新設が設けられることとなった。各医療機関
が急性期拠点機能、高齢者救急・地域急性期機能、在宅医療等連携機能、専門等機能
のどこに自分たちのポジションを置くのかを表明するということが必要になってい
る。2028 年度以内に各医療機関から表明を取りまとめて、地域医療構想会議で各医
療機関の機能を認めていくというような流れで決めていく。

その他

・病床数適正化緊急支援事業について

3. 阿久根市要保護児童対策地域協議会代表者会議

古 郷 理 事

令和 8 年 7 月 8 日（水）阿久根市役所で開催された。

協議事項

1) 要保護児童対策地域協議会の運営状況について

2) 令和 8 年度登録児童について

3) 各関係機関の取り組み状況について

令和 8 年度の登録児童は 34 名。割合としては全国平均並み。

虐待を受けている可能性のある児童の早期発見のため、医師会としては学校健診や救
急外来受診時に該当者がいないかを引き続き関係機関と連携していくことを確認。

（黒木副会長）学校検診の時に部位創がひどい児童や、昔は女子でも上半身を上げさ
せてやっていたが、最近は拒否する児童たちがいて、部位創や貧血が

強くなかったりすればいいかなと思って、聴診器を服の上から当てる状況で終わっている。

昔は痣とかを診ていたけど。そのあたりはどうなるか。

(二宮理事) 痣までは見れていない。小学校高学年で2次成長は早すぎないかというところは本当は診るべきところだが、今は診る風潮にないというか許されないという感じ。

4. 第57回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会 来仙会長

令和8年7月11日(土)・12日(日)城山ホテル鹿児島で開催された。

7月11日(14:30～18:00)

各部門管理者会(医師会病院部門)

第1分科会(医師会病院部門)

7月12日(9:00～11:00)

特別講演Ⅰ

演題「医療を取り巻く最近の動向と日本医師会」

講師 日本医師会 会長 松本 吉郎先生

特別講演Ⅱ

演題「鹿児島とつながる九州各県のものがたり」

講師 特定非営利活動法人 まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

代表理事 東川 隆太郎 先生

5. 出水地区結核対策委員会 二宮理事

令和8年7月15日(水)出水市役所で開催された。

内容

1) 委任状の交付

2) 各市町の学校における結核検診の実施状況と結果

3) 精密検査の必要な児童生徒の抽出

4) 次回の結核対策委員会の開催

令和8年度は問診票、学校検診を行った結果、精密検査の対象となる児童はいなかった。去年はいたが今年はいなかったので次回の委員会は今のところは予定されていない。近の学校検診マニュアルに沿って問診票を少し改善していくこととなった。

5) その他

6. 「災害の医療救護活動に関する協定」の協定書調印式 来仙会長

令和8年7月16日(木)阿久根市役所で開催された。

1) 開会

2) 調印

3) 出水郡医師会会長あいさつ

4) 出水郡歯科医師会会長あいさつ

5) 阿久根市長あいさつ

6) 閉会

阿久根市が救護に関するいろんな活動に資する物を、医師会・歯科医師会に提供するというような内容だった。

7. 令和8年度第1回出水市地域包括支援センター運営協議会 吉井理事

令和8年7月24日（金）出水市役所で開催された。

協議内容

- ア) 令和7年度出水市地域包括支援センターの運営について
- イ) 令和8年度出水市地域包括支援センター事業実施方針及び計画について
- ウ) 認知症初期集中チームについて

その他

地域介護予防介護支援事業に保健地区というのがあり、今年で出水市は10周年を迎えるということで、現在84団体1347人が参加されている。10周年を記念し10年の団体に表彰をされた。来年度からも継続的に活動継続10周年を迎える団体に表彰を行うということであった。

8. 鹿児島県医師国保組合第150回臨時組合会 中村副会長

令和8年7月29日（水）鹿児島県医師会館で開催された。

議 事

第1号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合事業報告の承認について
組合員の被保険者の数が昨年に比べて84人減の2,121名と少なくなっていた。

第2号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合一般会計歳入歳出予算の補正について

第3号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合一般会計歳入歳出決算について

歳入が1億3,700万、歳出が9,000万で差し引いて4,700万で3,600万の黒字であったが、今回特出すべきが100万円を超える医療費の状況として、昨年と比べて8,000万円以上の増額が見られた。予備費から8,500万円の増額補正を行って会計処理を行った。

第4号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合一般会計歳入歳出決算剰余金の処分について

第5号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合退職積立金特別会計歳入歳出決算について

第6号議案 令和7年度鹿児島県医師国民健康保険組合退職積立金特別会計歳入歳出決算剰余金の処分について
(監査報告)

第7号議案 鹿児島県医師国民健康保険組合役員の選任について

黒木先生が執行部で選任され、來仙会長が北薩地区の理事として選任された。

その他

合併についての進捗状況の説明があった。各県の共通の課題として、組合数の減少による保険料の減少、給付金及び高額医療費が出た場合に困窮するなどの問題点があるため、県を超えて国保を合併するという考え方で、全国で合併プロジェクトが進捗している。九州での九医連合併と、全国での全医連合併というものが2つ同時進行で行われている。鹿児島県単体では被保険者が2,000人程度の予算規模は12億円程度、九医連8組合の合併となると、約10倍の24,000人になり予算規模が100億円となり、大阪府と同レベルくらいになる。経費削減がほしい2.1億円が望める。全医連24組合になると3倍程度の68,000人になり、予算規模が280億円、東

京都の約2倍になる。4.8億円の経費削減になる。どちらにも利点、不利点があり、九医連は現時点で令和11年の合併を目指して福岡県と沖縄県2県が勉強会を開始している。令和6年の決算シミュレーションで本部を福岡、支部を沖縄と仮定し決算をもらったところ、単年度収支赤字が4,000万から1,000万と3,290万円のプラス効果が認められた。7月25日に第1回の会議が行われ、長崎県より全医連方式、福岡県より九医連方式と全医連方式との比較、沖縄県より合併後の会計シミュレーション報告があり、引き続き九医連方式にて検討していくことが決定している。九医連は熊本県、宮崎県は統合合併には慎重で、大分県は統合合併には参加しないという現時点での意見がある。沖縄県は積極的に参加したいということであった。九州全体としては九医連方式を推していくということであった。全医連の進捗状況は、スケジュール案として今年の7月にプロジェクト委員会での最終保守の決定がなされ、来年の3月に初期参加組合の意向表明、3月から6月に準備委員会の設立、約3年の期間を得て2030年の4月に新合併組合をスタートするということを目指している。

(黒木副会長) 高額医療が出ると国保組合から全国型の積立金みたいな助成が出るが、それもそろそろ落ち着けられるという予想をもとに動いている。高額医療の薬の保険適用が1人出るとすぐ赤字に転落するという状況だから、牧角理事長と池田副理事長が積極的に九州で統一できないかと考えている。

9. 第1回郡市医師会長連絡協議会

来仙会長

令和8年7月30日(木) 鹿児島県医師会で開催された。

報告

1) 鹿児島県ナースセンターにおけるスポットナースの導入について

常勤は望まないがときどき働きたいという方を、鹿児島県の看護協会がナースセンターに登録していただいて、看護師さん方にお手伝いしていただきたい時にこちらのシステムを使ってほしいということであった。なかなか出水あたりまで来ていただくのは難しいという印象であった。

2) 後期高齢者適正服薬支援事業について

いくつかの医療機関から同じような薬をもらっている高齢者や、睡眠薬を2つ以上の医療機関からもらっている高齢者も結構いて、その方々に自治体から薬の使い方がよくないのではないかとという通知をして、通知を確認した高齢者が医療機関や薬局で相談するというシステムだが、なかなか高齢者が届いた通知に目を通さないという現実で、進捗が困難な状況なので、医師会からもこちらの支援事業について高齢者に働きかけていただきたいという内容であった。

3) 2026 昇給調査結果について

南薩医師会が病院8つ、有床診療所4つ、クリニック4つに対し、2025年の昇給はどうだったのかというデータをとったが、給料の昇給率が平均で1.25%、ベースアップ評価料の昇給率が3.21%で、合計が4.47%であったというデータを示された。

協議

1) 新たな地域医療構想の進め方と医師会の関与について

厚労省から7月4日に新たな地域医療構想策定ガイドラインが発出され、その内容を日本医師会がまとめて県医師会も発表されたという内容であった。

2) 今の医療経済（主に診療報酬）の中で持続可能医療活動を行えるのか

どこの医療機関も運営状況が厳しいので、今後医師会がどのような取り組みをするのかということに関し、10月3日に九州医師会連合会第1回連絡協議会に開催されるがその時に、鹿児島県としても人口減少時代に対応した持続可能な地域医療提供体制の構築に向けた改革案を提案するという事を日本医師会を通じて国へ発信して今後の制度改革に生かされるように頑張っていくという返答であった。

3) 郡市医師会立看護学校について

全国的に医師会立の看護師養成機関は運営が厳しい。色んな地域で閉校が続いているが、このままでは地域の医療機関の人材不足が一層深刻化するだろう。地域医療提供体制が難しくなってくる事が懸念される。鹿児島県としては8月9日に行われた看護職を対象として鹿児島県看護就職ガイダンスを開催している。まだ学生、将来看護師になる方、今は就職していない看護師の方と地域の各医療機関を結びつけることだが、それをぜひ利用していただけたいということであった。

4) 予防接種事務のデジタル化について

今は紙媒体でやっているが、これをデジタル化しようという動きもあるということで、全国でデジタル化に取り組もうとしている自治体は28しかなくて、鹿児島は全くその気がないので鹿児島が動き出すときはご報告する。

その他

10. 令和8年度医師会立看護師等養成所会議
(都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会)

新 富 理 事

令和8年7月31日(金) Webにて参加した。

議事

1) 2040年に向けた人口構造変化を踏まえた看護職養成の課題と方向性

2) 看護師等養成所における最近の動向と課題

～遠隔授業・サテライト教室等のICT活用事例について～

3) 鹿児島県医師会「未来の芽プラン」について

大海クリニックの先生がはやぶさプランの実績などを報告され、全国の先生方からも賞賛と質問もあり、うまくプレゼンされていた。准看護学校の未来について会議を通して思ったことが、原田学園の女性の先生も出ていて、原田学園は奄美をサテライト化している。准看護学校は生徒が違うので、サテライト化や行政的なハードルがあるが、そこに対しても文部科学省と厚労省では温度差がある感じだが、出水郡医師会准看護学校に対して思ったのは原田学園のサテライト化という形で九州合併されて残すのもいいのではないかなということをした。それは今現実的ではなくて無理な難題ではあるが、原田学園の方も出水郡医師会准看護学校を意識しているのではないかなというような発言もあって、したらいいのではないかなと思った。

4) 諸問題に関する協議

11. 准看護学校

新 富 理 事

1) 7月18日(土): 阿久根看護学校のオープンキャンパス参加 2年生 8名参加

2) 7月21日(火): 終業式

3) 7月24日(金): 職員健診開始

- 4) 7月31日(金): 医師会立看護師養成所会議 Web 会議
新富・高口・神川 3 名出席

今後の予定

- 1) 8月17日(月): 看護師等養成所教務主任会議 県庁開催 : 高口・神川出席
- 2) 8月19日(水): 始業式
- 3) 8月23日(日): 中四九地区看護学校協議会研修会 高口・神川オンライン参加
- 4) 8月24日(月): 後期臨地実習開始
- 5) 9月2日(水)～3日(木): 戴帽式試験実施

令和 8 年度 学生総数 (令和 8 年 8 月 1 日現在)

	1 年生	2 年生	合計
学生数	7 名	9 名	1 6 名

12. 附属阿久根看護学校

内 匠 理 事

1) R 8. 7

7月18日 第1回オープンキャンパス 9:00～12:10 参加者 12 名
(人吉球磨准看護学校 3 名、出水准看護学校 7 名、既卒者 2 名)

7月27日 1 年生夏休み (8/22 まで)

7月28日 2 年生夏休み (8/22 まで)

7月31日 令和 8 年度医師会立看護師等養成所会議
13 時 00 分～16 時 00 分

2) 今後の予定について

8月8日 第2回オープンキャンパス 9:00～10:30 参加者 1 名(高校生)

8月10日 ホームカミングディ 9:30～12:30 参加者令和 7 年度卒業生 3 名

8月23日 第 57 回中四九地区医師会看護学校協議会 10:05～15:45
開催場所 熊本市医師会看護専門学校(オンライン配信)

10月22日 推薦・社会人入学試験 10:00～

3) 学生の状況 (8 月 1 日時点)

	1 年生	2 年生	3 年生	合計
学生数	5 名	1 3 名	1 9 名	3 7 名

・ 2 年生 1 名退学 (7/28 付)、もう 1 名退学希望

4) その他

- ・ 8 月 7 日に学校の説明を聞きに神村学園 3 名来校。
- ・ 人吉球磨准看護学校から、今後外国の方も受け入れようと思っているということで、次のステップとして看護師を目指した時に当校の方へと話を聞いていただきたいと話が来ているが、先日黒木先生から県とのことをペンディングされているということもあったので、こちらも今後の方向性が最終的ではないので今話を聞くのはペンディングしている状況である。
- ・ 10 月 22 日に推薦・社会人入学試験があるが、今後の学校の方向性もまだ決まっていないが、仮に令和 9 年 4 月入学者が最後になった場合、もし学生が留年した時、実際今でも 3 年生が単位が取れず留年という形になってしまっているが、募集停止した後に入った学生が留年してしまうと、一人のために全部続

けるというのは現実的ではないのかなと思う。方向性が決まった段階での入学生には単位を落とした場合はこちらでは卒業できないことや、他の学校へ転校していただく、通信制に行っていただく等を入学時に説明していた方がもめないためには必要だと思う。

13. 広域医療センター 内 匠 理 事

別添〔資料1〕参照

1) 7月の状況について

外来患者平均 149 人/日、入院患者については、一般病棟平均 114 人/日、回復リハ病棟 平均 34 人/日、地域包括ケア病棟 平均 20 人/日、緩和ケア病棟 平均 6 人/日の合計 174 人/日で前月より 1 名増、手術件数 123 件で前月より 12 件の増であった。

7 月の診療実績は、外来 72,615 千円（前年対比 98.0%）、入院 327,758 千円（前年対比 104.7%）で、合計 400,374 千円（前年対比 103.4%）となり、前月より約 17,200 千円の増収となった。

特別・個室利用状況は 83.6%の利用率であった。

また、急性期一般入院基本料 2 の要件

- ・平均在院日数 14.2 日(21 日以内)
- ・重症度、医療・看護必要度 35.4% (27%以上)

2) 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
の施設基準の届出提出。 8 月 1 日より算定可能。

14. 第二病院 朝 倉 理 事

別添〔資料2〕参照

7 月の平均患者数は、医療病棟 48.9 人(稼働率 85.8%)、介護医療院 62.9 人(稼働率 89.9%)になっており、全患者数は 111.8 人(稼働率 88.0%)で推移した。

また、延べ患者数は医療病棟で 1,516 人（前月対比 98.4%）、介護医療院で 1,951 人（前月対比 103.1%）になった。

診療報酬は、医療病棟で 36,893 千円、介護医療院で 34,979 千円、合計 71,872 千円（前月対比 100.5%）であった。

前月比較で、一日平均患者数は 2.7 名減少した。12 名の入院がありながら同数の退院があった。診療・介護報酬は前月並みであった。

15. 各支部報告 林 理 事

古 郷 理 事

出水支部： 理事会報告を行った。

阿久根・ 理事会報告を行った。

長島支部：

16. 県理事報告 黒木県理事

別添〔資料3〕参照

1) 地域フォーミュラリー説明会

全国の連携法人 63 か所で適用されている。

別添のごとく行政からの資料にはメリットしか記載がない。

参加された先生方がデメリットを考えられた。デメリットをしっかりと認識し、患者優先の医療を守る。

老健協会は共同購入をされていて、共同購入の品目を出して、それに乗っからなくてもいいような形で融通の利くことをやっているということで、医師会病院でも取り入れたらどうかなと思っていて、今後はそちらも進めていこうと思う。この地域フォーミュラリーとは根本的に考え方が違うので、先生方も意見がある人は出してほしい。処方自由度が制限されるというのが一番ではないかと思う。

2) 個別指導

治療・疾患の部位の記載

往診時間と場所の記載

病名整理

検査必要性の根拠・結果記載・評価記載

17. その他

1) クレイン調剤薬局について

新富理事

クレイン調剤薬局がリニューアルされて、医師会に施設紹介してほしいという話があった。ドライブスルー薬局を開設したことと、無菌調剤室を作られたことで、無菌調剤室は、先生方の門前薬局でも希望すればそこで無菌調剤ができるということのこと。いわゆる在宅がんの人などの IVH の中に麻薬を入れるとかそういうことに使う。地域的には必要で会営薬局が作るべきだが、予算や場所がないということでクレイン薬局が立て直すにあたり、生き残りのためにも導入したということで、医師会の先生方にも伝えてほしいとのこと。もし希望があれば個別で説明にも行くということであった。

2) 電子カルテの更新に伴う患者受付方法について

内匠理事

(内匠理事) 9月1日に電子カルテの更新で富士通から入れ替わりのため、8月31日夕方5時30分から電子カルテがすべて止まる。9月1日の朝7時30分から開始するまで紙カルテの運用になるため、かかりつけの方で当院で診ている患者さんは受け付けるが、それ以外の方はその間だけ状況によっては出水総合医療センターの方へお願いしたい。藤田先生には連絡している。

(古郷理事) 救急外来は普通にやっているのか。

(内匠理事) 当番は立てるが紙媒体だけになってしまうため、初診の方は場合によっては出水総合医療センターとかを検討いただきたい。

(吉井理事) 入院の患者は紙媒体か。

(内匠理事) あとで日付が変わって入力ができる形になってから事後入力になる。

《承認事項》

1. 会員の入会について

入会（令和8年8月1日付）

氏名	会員種別	支部	医療機関	主な診療科	生年月日
いまむらけんすけ 今村研介	B2	出水支部	出水病院	精神科	H3.2.27

承認。

2. 共催・後援依頼について

○ 出水郡医師会学術講演会

日程	令和8年9月11日（金）19:00～20:10
会場	ホテル泉國邸（Web 併用）
内容	講演：「【出水地域での心不全治療】 ～「なおす」医療から「つくらない」医療へ～」 講師：福永内科循環器科 副院長 福永 研吾先生 講演：「【出水地域で考えるCKD治療】 ～初めの一步から症例検討まで～」 講師：鹿児島市立病院 腎臓内科 科長 吉嶺 陽造先生

承認。

3. 阿久根市介護保険運営協議会兼地域密着型サービス運営委員会並びに地域包括支援センター運営協議会の委員の推薦について

標記の件、支部長交代に伴う委員の推薦依頼が来ており、古郷阿久根・長島支部長にご依頼して、ご快諾を頂いておりますので、ご承認頂きたい。

承認。

4. 鹿児島県医師会 会内各種委員会委員の推薦について

標記の件、鹿児島県医師会より令和8年度に新たに設置する会内下記4委員会の各委員推薦依頼が参りました。各先生方にお願ひし、それぞれご快諾いただきましたので承認願ひたい。尚、回答期日が8月5日まででしたので、事後承認となる。

・医道・倫理・自浄委員会	・・・ 中村 直英副会長
・介護保険委員会（地域包括ケア推進委員会）	・・・ 古郷 修一郎理事
・医療政策・医業経営委員会	・・・ 来仙 隆洋会長
・地域医療構想対策委員会	・・・ 来仙 隆洋会長

承認。

5. その他

《協議事項》

1. 安定ヨウ素剤事前配布説明会への医師派遣について

標記の件、鹿児島県保健福祉部長より、医師（各地区1名）の派遣依頼が来ておりますのでご協議願いたい。尚、阿久根地区は、内匠理事にご快諾いただいております。

1. 日時及び場所

1) 出水地区

令和8年10月24日（土） 午後2時～午後4時

高尾野農村環境改善センター（出水市高尾野町大久保149番地1）

2) 阿久根地区

令和8年10月31日（土） 午後2時～午後4時

阿久根市民交流センター 風テラスあくね（阿久根市塩鶴町2丁目2番地）

2. 派遣医師の旅費及び謝金

1) 旅費 県の旅費規定に基づき支払い

2) 謝金 日額14,660円

3. 派遣医師の役割

- ・事前配布説明会において、安定ヨウ素剤（ヨウ素成分）に対する服用不適（禁忌）や慎重投与が疑われる住民への安定ヨウ素剤服用に関する医療相談。

- ・必要に応じて、かかりつけ医等への受診勧奨を行う。

※禁忌・慎重投与者：甲状腺機能異常症、腎機能障害、先天性筋硬直症、高カリウム血症等

出水地区は新富理事、阿久根地区は内匠理事を推薦することです承。

2. 阿久根市地域ケア会議委員の推薦について

標記の件、阿久根市より委員の推薦依頼が参りましたのでご協議願いたい。現委員は原善根先生で、任期は委嘱日から令和10年3月31日までである。

古郷修一郎阿久根・長島支部長を推薦することです承。

3. 鹿児島県医師会報へのご寄稿について

標記の件、鹿児島県医師会より下記の内容で、鹿児島県医師会報11月号の執筆依頼が来ておりますのでご協議願いたい。

テーマ：「救急の日」 文字数：2,000字以内 締切日：9月25日（金）

（尾上部長） 救急の日の行事に関して消防と打ち合わせをして最初はやる方向であったが、熊本地震が起きて消防自体が応援で出ているので、準備ができないということで、会長にも相談して今年もやらないということになった。

（黒木副会長） 救急の日をテーマに書けということか。

（尾上部長） 去年は内匠理事に書いていただいた。

（内匠理事） どうしてもという時は、地震でエレベーターが自動停止してしまったことを書く。夕食や朝食を職員が階段で運んだということもあったので。

(來仙会長) 災害協定のことも絡めて書くのはどうか。先生のご尽力なので。

(内匠理事) はい。

内匠理事にお願いすることです承。

4. 福祉医療機構による物価高騰の影響を受けた施設等に対する経営資金又は長期運転資金へ申し込みについて

別添〔資料4〕参照

標記の件、病院運営委員会で説明させていただきましたが、広域医療センターでは令和5年度以降、赤字決算が続いており、令和7年度は借入金返済等により、現預金が年間約3億800万円減少しております。

また、令和8年度は電子カルテの更新を控え、見積額約5億円に対し、電子カルテ積立残高は2億円で3億の不足となっています。定期預金は、令和8年5月末現在で6億3千100万円の残高がありますが、広域のみならず両看護学校の運転資金不足に備え、利用は最小限に留めたいと考えております。仮に不足分をリース契約等で補うとしても資金繰りの悪化が予想されます。

そこで掲題の物価高騰資金を7億5千万円で申請し、融資可能であれば、当面の運転資金と、電子カルテの不足額を捻出できます。

なお、この物価高騰資金の概要は次のとおりで、無利子期間が設けてあり、他の借入を利用するより優遇されたものとなっています。

※貸付利息 2.2% (R8.4.1時点参考) 当初5年間無利子

ただし保証人不要制度の上乗せ金利0.15%が必要

※貸付限度 直近の事業収益の2カ月分

※償還期間 10年以内

※福祉医療機構の他の借入金との借換可

つきましては、下記のとおり申請を行って良いかご審議願いたい

記

- ・借入金額 750,000,000円
- ・償還期間 10年(最長)
- ・据置期間 6か月(最低6か月必要)
- ・保証人不要での申請(利息上乗せ0.15%)

(※) 融資内定すれば病院建替借入金(R8.5月時点残高3億7,674万円)を完済し、年間返済額を減少させることを検討致します。

承認。

5. その他

阿久根看護学校・准看護学校について

來仙会長

両校について、前回の総会にて閉校にしようという方向性に決められたが、その時期をはかりたい。まず、阿久根看護学校に関しては、先ほど内匠理事からあった色んな問題が生じるという可能性を含めて、来年をもって最後の学生の募集とイメージしているが、皆様はいかがか。

(黒木副会長) やはり総会決定が優先か。

(尾上部長) 定款にうたわれている。

(來仙会長) 准看護学校に関しては、今日出た意見も吟味して、次回の理事会あたりでどうするかということを決めるのが良いと思うのだが、まずは阿久根看護学校に関しては、きちんとした将来像を作っておかないと、学校の教師も閉校というのが頭にあって時期はどうなるかと考えていると思うので延ばすのはどうかと思う。

最後の募集は、阿久根看護学校は来年、准看護学校は再来年にしようと考えていた。最後の卒業生の時期は一つが良いと思った。最後の卒業生に送る言葉は2年間やっていくのはなかなか大変だと思い、1年ずらせば3年後にはすべての学生さんを卒業させることができるという私なりの気持ちがあり、このようにご提案しようと思った。しかし先ほどのご意見を考えると、准看護学校に関しては先にすると考えていいかと。ただ、阿久根看護学校はある程度時期を決めてあげないと、いろんな人の将来に関わる問題があり、先生方のご意見を伺いたい。

(内匠理事) 手続き上に関しては、10月26日に阿久根看護学校の運営会議があるので、そこで決まれば総会の決定と運営会議の議事録を踏まえて、12月いっぱいには県に閉校の提出になると思う。そうすると、令和10年度の4月はそのままだが、受理されれば令和10年度からの募集停止というスケジュールになると思う。一番早くて12月26日の運営会議で話はまとまると思う。

(來仙会長) 准看護学校は令和11年度に募集停止をずらすとしても、今日決定しなくても、この後の理事会でも構わないと思う。ただ、阿久根看護学校の10月の運営委員会に合わせるとしたら、今の内に決定しておかないと、内匠理事の文書作成の時間が必要かと思う。

(黒木副会長) 阿久根看護学校はどうされるか。

(來仙会長) 決定は待つ。

(黒木副会長) 10月の運営委員会に間に合わせるなら9月の理事会しかない。

(内匠理事) 10月の理事会でもぎりぎり間に合う。

(來仙会長) 今日の話から来月の理事会で阿久根看護学校の問題を意見集約するということでよろしいか。

来月9月の理事会で話し合うことで決定。

令和 8 年 8 月 12 日

(出席された理事・監事全員にご署名・押印いただくこと
になります。)

会 長	⑩
副 会 長	⑩
副 会 長	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
理 事	⑩
監 事	⑩

次回理事会 … 令和 8 年 9 月 8 日 (火) 19 : 30 ~ 予定